



おたより



- セミナーに参加して・・・P 1
- NPJ事務局移転によせて・・・P 2
- 日本乳幼児精神保健学会に参加して・・・P 3
- 0歳児の親子支援スペシャリストをめざす・・・P 4
- 日本家族療法学会に参加して・・・P 5
- 日本家族療法学会に参加して2・・・P 6
- インフォメーション・・・P 7, 8



「企業と創る地域社会・子育てにやさしい社会」セミナー・交流会に参加して・・・

福川 須美（理事長）

去る1月25日、横浜のNPO法人び～のび～の主催で「企業と創る地域社会・子育てにやさしい社会」というセミナー・交流会が開催されました。昨年6月のNPファシリテーター全国交流・研修会の分科会①では「企業向けアプローチを開拓しよう」と話し合いました。これは願ってもないチャンスと捉えて出かけてきました。

女性にとって仕事と家庭・子育ての両立はまだ多くの困難を抱えています。NPプログラムは従来専業主婦を対象としてきましたが、今やゼロ歳時期は地域の親子広場などを利用し、育児休業明けからは保育園に預けて仕事に復帰という子育て状況が普通になってきました。1～2歳児の保育所利用率はうなぎのぼりに上昇し、ほぼ過半数に達しています。NPプログラムは共働き家族の子育てを支えるという新たなミッションに取り組むべきでしょう。

お母さんは育休明けが近づくと、仕事と子育てをうまくやっていけるだろうか、不安が募ります。子どもが熱を出したら？職場は休める？子どもは保育園で大丈夫かしら？日本の企業は多くが仕事優先、まだまだ子育て中の家族にやさしくはありません。しかし、企業にとっても従業員が子育てや家庭の悩みをかかえながら勤務しているは大きなマイナスです。

もう20年近く前にカナダに出かけたとき、これからの企業は、従業員が子育てや介護に悩みを抱えているは仕事の成果を期待できないから、従業員のライフステージに合わせた働き方を可能にする必要があるとポスターなどで啓蒙していました。日本も同様ですが、一步も二歩も遅れていますね。

そんな中で、このセミナーでは社内や地域で子育てにやさしい取り組みを展開している企業が登壇して発表してくれました。企業としては、深刻な労働力不足の現在、離職率を低下させ、長く勤務してもらうには、従業員の満足度を高める必要に迫られており、働き方改革に取り組まざるを得ません。その課題として子育て支援は不可欠の位置を占めています。しかし企業は子育て支援のノウハウを持ち合わせていません。地域の子育て支援NPO等との連携は必然的でした。

びーのびーのはその点で大変有能な連携協力のパートナー役を担っていることがよくわかりました。

そこでCFRCは何ができるか？6企業からの発表を聞きながら感じたことは、それぞれが自分の持ち味を生かしながら取り組んではいるものの、それらは、主に仕事と子育ての両立のための環境条件整備です。私たちはそこに子育て自体への支援を提供したいと思います。いよいよ子育てに向き合うとき、「孤育て」ではなく、NP仲間がいれば、きっと心強いに違いありません。

NPプログラムはまさに求められていると感じます。交流会は軽食付きで、和やかに進められました。私はセミナーで発表された企業人とせっせと名刺交換、リーフレット等を手渡し、CFRCの事業の宣伝にこれ務めました。CFRC会員の片岡さんも参加して手伝ってくださり、ありがとうございました。話をするなかで父親プログラムに関心を持たれた方もいました。今後、これらの企業になんらかのアプローチをして、NPプログラムを体験してもらいたいものです。具体的な企業に出会えた貴重な機会でした。



—Nobody's Perfect Japan 事務局の移転によせて—

NP-JAPAN 代表 伊志嶺 美津子

Nobody's Perfect Japan (以下 NPJ) は 2004 年 4 月、カナダ保健省から日本における唯一の NP ファシリテーターおよび NP トレーナーの資格認定機関として公認を得て活動を開始しました。子ども家庭リソースセンター (以下 CFRC) がこれに加盟したのは 2005 年になります。以来 CFRC は正式に NP ファシリテーター養成を開始、これまでに 700 名以上の認定 NP ファシリテーターを輩出してきました。

NPJ は 2 団体で運営、創設者である原田正文先生が昨 2019 年 8 月まで代表を務められ、事務局を NPO 法人こころの子育てインターねっと関西、通称 KKI 内で運営されてきました。同年 9 月からは CFRC が NPJ の事務局を担うこととなり、CFRC 事務局の小林さんが事務を兼務、代表を伊志嶺が務めることになりました。慣れない運営になりますが、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

NPJ の規約第 4 条[目的]には、NPJ は NP ファシリテーターおよび NP トレーナー資格を認定するとともに、日本における NP プログラムの質の確保と日本への普及のためのセンターとしての役割を果たすことを目的とする、とあります。NPJ 業務の現状としては、資格認定を申請された方の認定作業と認定書の発行が主な仕事になっています。認定された NP ファシリテーターは、元の養成団体の所属ファシリテーターとして活動されています。

NPJ のもう一つの目的、プログラムの質の確保と普及についての取り組みはこれまでとくになく、これからの課題であると考えられます。この目的を達成するために NPJ がしなければならないこと、できることは何なのを追求し実行していくことが、これからの NPJ に求められていると思われまます。この点については所属する 2 団体で検討していく必要がありますが、実際の活動としては各団体で取り組むべきことかも知れません。CFRC としても何をどうしていくかを模索して行きたいと考えています。

さしあたってできることとして、ホームページ(HP)の改訂に取り組みははじめました。トポスの会 M さんの協力をいただきながら、まずは CFRC の HP の見直しに取り掛かっています。その後 NPJ の HP を見直していきますが、皆さんにも HP を見ていただいて、ご意見ご提案などいただければ幸いです。

CFRC はこれまで、NP をはじめとする複数のプログラムのファシリテーター養成を中心に事業を行ってきました。NP にかんしては、NPJ が認定機関とすると CFRC は養成機関であったと言えます。そんな中で、トポスの会が中心となって開催されてきた「全国 NP ファシリテーター交流・研修会」は、ファシリテーターを支え、NP の質の確保と普及に大きく貢献されてきたと思います。

NP の神髄は、ファシリテーションによる知恵の交換と支え合いにあると思います。CFRC としても NP の今後を見据え、今年 6 月の交流会がプログラムの質と普及に資する機会となるよう、共催者として力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

Nobody's Perfect Japan (NP-Japan)



カナダ保健省公認 NPファシリテーター/NPトレーナー認定機関

お問い合わせはメールでお願いします。

Mail : np-japan@nifty.com

<http://np-j.kids.coocan.jp/>



日本乳幼児精神保健学会 FOUR WINDS 沖縄大会

「童(わらび)どう宝ー社会で支える親子の成長」に参加して

永田 陽子(理事)

「童どう宝」は沖縄の方言で《子どもこそ宝》の意味だそうです。2019年11月乳幼児の精神保健を支えている保育・教育や医療及び心理等に関係する人々が全国から参集しました。

沖縄は全国一の高い出生率を保つ反面、高い離婚率や10代の妊娠・出産等の母子保健分野や子どもの貧困等に課題をもつ県でもあります。第二次世界大戦で、日本で唯一地上戦の地となりました。ほとんどの方が友人・知人を失っているのではないかとと言われるほど激戦で多くの犠牲者が出ました。當山富士子(元沖縄県立看護大学教授)先生の教育講演「戦後67年目に観た戦争トラウマ」は、75歳以上の沖縄戦体験者401人の調査(2012年度)の報告でした。報告では、心的外傷後ストレス障害(PTSD)のハイリスク者は実に4割にもものぼり、未だ戦争体験を語れない人々が多くいるとのことでした。それにもかかわらず、彼らの精神的健康状態が良好であるのは、沖縄戦体験者が持つ高いレジリエンスと相互扶助「ユイ」での地域共同体とのつながりによるだろうとのこと。過酷な体験を強いられた彼らの高いPTSDに配慮しながら、社会が支えや介護をどう提供できるかは今後の課題だと結んでいました。當山先生の研究から、戦争の傷付きの大きさや人とのつながりが人の“生きる”を支えることが学べます。当センター推進のノーバディズ・パーフェクト(NP)プログラムも人と人とのつながりを大切にしていますが、今後の子育て家庭支援においても、“地域のつながり”を改めて念頭に置きたいと思いました。

また、トロント精神分析研究所所長ジョゼフ、フェルナンド氏のトラウマが癒やされる前に本人のトラウマの心理的な認知が必要であり、認知していないゼロプロセスへのアプローチとの考え方は心理臨床家としてのヒントを得られました。

大会長新城正紀(沖縄大学教授)先生をはじめ、沖縄の子どもの貧困の現状・課題とその取り組みの演者山内優子先生、児童心理治療施設の取り組みの発表者上地信乃先生、10代の妊産婦支援の取り組みのうるま市の宜保幸恵・外間泉美両保健師などに共通して感じたのは、こつこつと目の前のことに取り組む信念をもった歩みでした。少なくとも私にはない『気骨』のような芯の太さと包み込むふところの深さがありました。

また、東日本大震災による原発事故後、郡山から子ども達を支援し続けている小児科医菊池信太郎先生が「国家を揺るがす大きな問題を地方に押し込め、時間と共に忘れ去られていく」ことを沖縄と福島の間通点として上げられていたことは忘れられません。

5年間だけでしたが、原発のある大熊町の支援にかかわりを持った者として、沖縄の戦争や福島の放射能汚染事故を忘れず、今回の学びを通して細々でも発信を続けようと思いました。





0歳児の親子支援のスペシャリストをめざすー愛着形成のためにー

0歳児親子コミュニケーション研究会代表 永田 陽子

赤ちゃんは誕生時に、人に関心を示しその動きを取り入れようとする力を持っていることがわかっています。また、子どもの育ちの問題等からも愛着形成が注目されています。私たちは、生まれて最初の一年間の親子関係の重要性とそこかわりに焦点を当てた「0歳児の愛着形成のためのコミュニケーションスキル講座」(入門講座)を毎年、実施しています。

まずは、0歳の赤ちゃんとのやり取りとなる遊びを支援者が知ることがスタートです。私たちの思いは、単なる“遊び方”を親に教えることではありません。気持ちの通い合う“間主観的”なかかわりを親子に届ける支援にしていきたいと考えています。自分も含め子育て親子支援者は、赤ちゃんの動きや感情の読み取り、そして、人との交流の観察力を磨くことが求められます。入門講座終了者を対象に、初級「0歳児の観察力を磨こう」ー0歳児親子コミュニケーションーを実施しています。これは、乳児の発達を学び、乳児と人との交流の観察力を高めるための研修です。一日半をかけて行います。知っているようで知らない乳児の発達を知り観察力が磨かれると、乳児の様子を親に自信をもって伝えることができるようになります。

入門・初級コース終了者向けに、親子への伝えることや講座の進行・展開に向けて、中級コースを2019年度実施しました。各現場での実践も踏まえて、多様な親子にどのように投げかけ、場を創っていき親子の向き合う力をサポートできるかが目的です。表面的な知識ではなく、自分の中にストンと落ちる学びになりました。更に、高みを目指し、次のプログラム作成を考え中です。

2020年度の研修へのご参加をお待ち致しております。

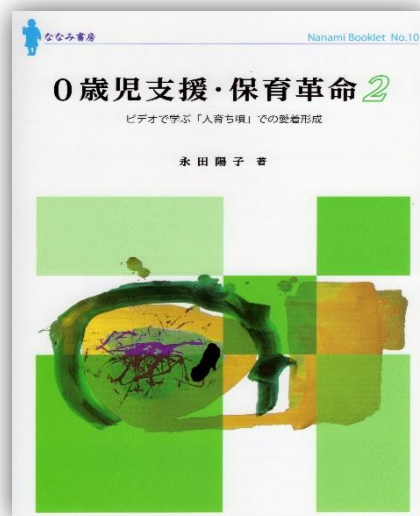
保護者の方への具体的な言葉かけ、タイミングなど、様々な気づきになり、いろいろな発見となりました。

研究した結果等の説明で、自分の中の曖昧な部分がストンと落ちました。

初級からつながっている内容で分かりやすかった。

中級受講者の感想

具体的な声のかけ方、言葉選びで参考になることが多かった。親子の関わりができるよう支援していきたいと思います。





「日本家族療法学会」第36回 北海道大会に参加して・・・その1

菅野 陽子 (副理事長)

学会参加と家族支援の学びを CRFC の活動につなげる

☆学会発表のご報告

学会名:一般社団「日本家族療法学会」第36回 北海道大会

日時:2019年6月28日(金)～6月29日(土), ワークショップ6月30日(日)

ホームページにありますように、CRFC の活動内容の1つに「調査研究」があります。

昨年6月に、「日本家族療法学会」に参加致しました。

臨床心理士であり教育現場の学校臨床に長く携わってきたスクールカウンセラー(以下 SC)活動から、自主シンポジウムのシンポジストを担い、事例検討を発表してきました。

*自主シンポジウム:チームで不登校や保健室登校の児童生徒・家族に取り組むために

—SC と養護教諭の協働について考える

岩崎和子(前橋市立東小学校)

田村毅(田村毅研究所)

渡辺俊之(渡辺医院/高崎西口精神療法研修室)

菅野陽子(浦和大学)

*事例検討:思春期危機における他害願望—スーパーヴィジョンによるクライアント及び家族への理解と支援

菅野陽子(浦和大学)

座長・生島浩(福島大学)

内容は割愛いたしますが、(詳細は学会のホームページをご参照ください)日頃から家族支援というけれど、支援する者も当事者にとっても「家族」はそれぞれ違っているということを忘れてはいけないと思っています。最近の日本の家族を取り巻く環境の急激な変化は、個人のころのあり様にも大きく影響し、家族の求めるニーズは非常に多様で複雑になってきています。そのためにも、子どもと家族の支援や支援者養成の理論と方法について研さんを積んでいきたいと思っています。

★グループ・スーパーヴィジョン(SV)の勧め

実際に子どもや家族の支援をしていて困難なケースにぶつかった時、あなたはどのようにされていますか。私は経験豊富な専門家によるSVはとても有効であると実感しています。年に数回、精神科医によるグループスーパーヴィジョン(以下 SV)を受けていますが、その帰り路は心が温かくなり元気回復して、「さあ、また仕事をがんばるか!」という気持ちになれるのです。個人SVは敷居が高い(一般に有料です)と思われる方は、まずグループSVを経験してみてください。

来年度も、CRFC で「グループSVによる事例検討会」を開催する予定です。ご関心のある方は今後もぜひホームページの記事に注目をしていてください。

事例検討の対象は、乳幼児から思春期の子どもとその家族の支援について、参加者と専門家ともに考えて、現場で実践できることを提案していきたいと思っています。



☆曖昧な喪失とレインボウプログラム

学会 3 日目のワークショップでは、「災害と喪失」に参加しました。災害は被害にあった人数、エリア、社会的損失など「量」で考えられることが多いのだが、支援者として対応すべきことは被災者個人や家族であり、むしろ個別的な特性や喪失の「質」を理解すること、という主旨の講座で、午前は

- ①喪失と回復(モーニングワーク/グリーンワーク)についての基本理論、
- ②災害時の喪失の特性とその支援、
- ③行方不明者の家族等が経験するあいまいな喪失の特徴と家族システムへの介入方法、を学びました。

午後からはあいまいな喪失に直面している家族の事例を通して、家族のもつレジリエンスに注目した支援方法について、グループワークとディスカッションを通して理解を深め、講師 3 人による討議、さらにフロアからも白熱した全体討議で、参加者は家族の視点から災害における喪失への支援を熟考した一日となりました。

濃い霧に包まれたような状況から、家族がそれぞれのもてる力を回復して変化していく方法は、講師の 1 人石井千賀子(ルーテル学院大学/TELL カウンセリング)が Boss(2006)の「あいまいな喪失理論と介入方法」を中心に述べられました。

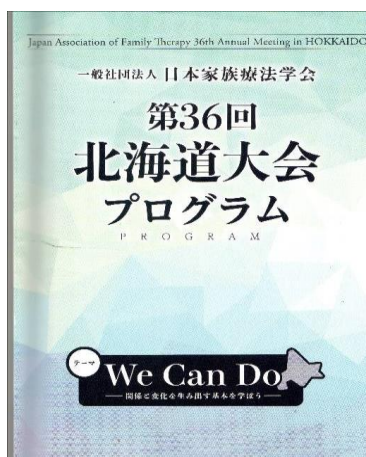
私どももレインボウズ(喪失体験者の長期的なサポート)の日本支部として活動してきましたが、前号(2019年9月号)にレインボウジャパン代表である櫃田紋子理事が記載したように、「あいまいな喪失」は災害に限らず、実は私たちの身近なところ、こころのなかにもあるのではないのでしょうか。特に、今の子どもたちが抱えている口にはできない「助けて」や「苦しいよ」というこころの叫びを、もっと日常の場面でプログラムを展開して、こころのケアに役立つことや、健康な心身の育ちに予防的に根づくことを切に願って、レインボウ部門のメンバーが養護施設や学童で地道に活動を続けています。

これらのプログラムはどういうものか、また導入するにはどうしたらよいのか思われましたら、ぜひ当団体子ども家庭リソースセンターまでコンタクトしてみてください。

★子どもに関わる仕事に従事している方のための事例検討会～グループスーパービジョン形式による～

経験豊かな臨床心理士と保育の専門家の講師陣がファシリテーターとして、またスーパーバイザーとしての役割も兼ねながら一緒に参加します。クローズされたグループで守秘を大切にします。

©2020 年度の実施については詳細が決定次第、CFRCのホームページにアップしますので、ご覧ください



「Information」子ども家庭リソースセンター（CFRC）からのお知らせ



★Nobody's(ノーバディズ) Perfect(パーフェクト)(NP)プログラム体験講座

NPの考え方が生まれたカナダの背景、NPを理解するためのミニ体験講座。NPの内容を知りたい方たち向けに適切な講座です。定例的に年4回(各3時間)実施。内容はどの回も同じです。

【内容】(1)NPプログラムの理念と精神、人間観・価値観 (2)NPプログラムが、なぜ、今、子育て支援が現場で必要なのか (3)NPプログラムの体験ワーク(実習)

【時間】13:00～16:00【会場】当センター事務所【定員】各20名【受講料】2,500円(テキスト代500円含)

【開催日程表】2020年度 ※お申込みは開講1～3か月前に当センター事務局まで。

担当は変更になる場合がございます。お申し込みの際に事務局へご確認ください。

	講座日程	担当(予定)	状況
第1回	2020/4/26(日)	石川文子	募集中
第2回	2020/7/26(日)	櫃田紋子	募集中
第3回	2020/10/18(日)	木村弘美	募集中

★NPファシリテーター養成講座(4日間) — NPプログラム実践者資格取得の為に必要な講座 —

【開催日程表】2020年度 ※お申込みは開講1～3か月前に当センター事務局まで。

	講座日程	担当(予定)	状況
第1期	2020/5/23(土),24(日),30(土),31(日)	石川文子	募集中
第2期	2020/8/22(土),23(日),29(土),30(日)	大豆生田千夏	募集中
第3期	2020/11/20(金),21(土),22(日),23(月祝)	永田陽子	募集中
第4期	2021/2/20(土),21(日),27(土),28(日)	渡邊暢子	募集中

【時間】1・2日目 9:30～16:30 3・4日目 9:30～17:00【定員】各12名【会場】当センター王子事務所
【受講料】70,000円(テキスト代2,000円および教材費は別。資格申請料10,000円別。)

★NPアフター講座(年3回) 対象:NPファシリテーター養成講座を修了されたすべての方

ファシリテーター資格にふさわしい技能や資質を維持し、NPプログラムに参加される方々に最良のプログラムを届ける為に必須の研修の機会です。プログラムの質の維持の為に少なくとも3年に1回は受講ください。

(1)フォローアップ研修 2020/5/10(日)、9/6(日)、2021/2/14(日) 各募集中

【時間】各日共通 9:30～12:30(3時間)【受講料】各日3,000円【定員】各20名

養成講座終了後2年以内にプログラムの実施ができなかった方が対象です。

(2)ステップアップ研修 2020/5/10(日)、9/6(日)、2021/2/14(日) 各募集中

【時間】各日共通 13:30～16:30(3時間)【受講料】各日3,000円【定員】各20名

プログラムの実施済みの方が、技能をさらに向上させるための研修です。プログラム実施に当たって困ったことや課題を持ち寄って、トレーナーとともに学びあって課題解決を図り、それぞれのステップアップを目指します。

※上記1,2,3の講座の企画や実施についてはお気軽にご相談下さい。また、自治体、法人等の団体からのお問合せも承ります。

「Information」子ども家庭リソースセンター（CFRC）からのお知らせ



2020年度0歳児のコミュニケーション（「人育ち唄」）関係講座

◎0歳児親子にかかわる保育士や子育てひろば担当者、助産師/保健師などの方におすすめの講座です。

	育児に戸惑う0歳の時期に、親子のかかわり合いが生まれる支援の仕方を学びます。				
種類	研修	日程		参加費	
入門講座	「0歳の愛着形成のためのコミュニケーション・スキル」	4月26日	9月20日	2021/1月17日	各回3,000
入門講座2	「動き始めてからの愛着形成：遊びを通して」	2020/7/19午後		3,000	
初級研修	「0歳児の観察力を磨こう」	5月10日午前・6月14日午前、午後		15,000	
中級研修	「0歳児支援・人育ち唄の活用を磨こう」	8月24日午前、午後・9月20日午後		20,000	

◎現場で子どもや保護者への対応に悩みや戸惑い、時には疲労感を感じているのではないのでしょうか。

普段の困り感を沢山持ち込んで受講してください。対応のヒントが得られます。

種類	研修	日程	参加費
支援者研修	「気になる子の捉え方と対応」 -主に乳幼児期～学童期前半-	4月26日午後	2,500
支援者研修	「最近の子育て状況と保護者支援」	7月19日午前	2,500

*開催日はすべて日曜日、会場は、北とぴあ（東京都北区王子1-11-1）です。
JR京浜東北線、地下鉄南北線、都電王子駅から徒歩2～5分です。

*詳細、お問い合わせ、お申込みは、HPをご覧ください。

*すべて、申込を開始しています。定員になり次第締め切らせて頂きます。

★レインボウ・ファシリテーター(A) & コーディネーター(B) 養成講座 ～喪失体験をかかえる子どもたちへの援助～

- (A) 日時：2020年3月14日（土）、9月12日（土）、2021年3月20日（土） 10：00～17：00
 （定員）12名 （受講料）10,000円 （テキスト）5,000円
- (B) 日時：2020年3月15日（日）、9月13日（日）、2021年3月21日（日） 13：00～16：00
 （定員）12名 （受講料）5,000円 （テキスト）2,000円
- *会場はどちらも当センター事務所 *講師はどちらも 櫃田紋子 伊志嶺美津子

●トポスの会(自主的なファシリテーターの学びの会)

NPファシリテーター全国研修・交流会 6月 27日(土) 詳細は「トポスの会 NPグレープ」でご検索下さい。

●寄付金のお願い

～ ご質問、お問い合わせ等は、下記のCFRC事務局まで ～
 【寄付金お振り込み先】 ゆうちょ銀行 口座記号・番号 00130-4-651522
 加入者名：NPO子ども家庭リソースセンター

●ボランティアさん募集

ファシリテーターの皆さんに、NP養成講座開催時のスタッフ役や親役などのボランティアをお願いすることがあります。募集をさせていただく際には、ぜひご協力いただけますようお願いいたします。

NPO法人子ども家庭リソースセンター(略称:CFRC)

○所在地 〒114-0002 東京都北区王子 2-18-12 ドムス王子 1階 ○Tel&Fax 03-6755-2855
 ○E-mail info@kodomokatei.com ○URL <http://kodomokatei.com/>
 ○交通機関 JR 線王子駅北口改札から徒歩 8分 地下鉄南北線王寺駅 5 番出口から徒歩 7分

編集後記 お待たせいたしました。やっとおたよりが出来ました。新型コロナウイルスを気にかけての編集でした。今回も充実した内容です。どうぞお読みください。

編集・発行 NPO法人子ども家庭リソースセンター 発行日：2020年 3月10日

